		等專門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	電気電子数学 I				
科目基礎	營情報										
科目番号		0343			科目区分	専門 / 必					
授業形態		授業			単位の種別と単位	数履修単位	: 1				
開設学科			、テム工学科		対象学年	4					
開設期		前期			週時間数	2					
教科書/教	材			塩川 高雄、共著「微分方程式・ラプラス変換・フーリエ解析―電気電子数学入門」(オーム社)							
担当教員		丸山 珠美	<b>€</b>								
<u>到達目標</u> 1.一階の常 2.二階の常 3.ラプラス	2 次分方程	式の基本形を 式の基本形を 礎を修得し、	理解し、基礎的な 理解し、基礎的な 電気回路の応答解	問題を解くことがで 問題を解くことがで 析等に応用できる。	きる。 きる。						
ルーブリ	<u> </u>				I		T				
			理想的な到達レ		標準的な到達レベ		未到達レベルの目安				
評価項目1			解し、一般解の	程式の基本形を理 導出法を習得し、 とくことができる。	一階の常微分方程 解し、基礎的な問 できる。	式の基本形を理  題を解くことが	一階の常微分方程式の基本形を理解せず、基礎的な問題を解くことができない。				
評価項目2	!		解し、一般解の	程式の基本形を理 導出法を習得し、 くことができる。	二階の常微分方程 解し、基礎的な問 できる。	式の基本形を理  題を解くことが	二階の常微分方程式の基本形を理解せず、基礎的な問題を解くことができない。				
評価項目3	}		各種関数のラブ 、電気回路の応 きる。	プラス変換を導出し 答解析等に応用で	基礎的な関数のラプラス変換が求 められ、電気回路の応答解析等に 応用できる。		基礎的な関数のラプラス変換が められない。				
学科の至	達目標	項目との関									
<u>」                                    </u>		. , <u>_</u> 7/A									
概要		理解を容している。	湯にすること、され ダ、工業数学)を	学分野の専門科目には工学で頻繁に用いられる数学の基礎が使われている場合が多い。そこで、専門科目のにすること、さらに科学技術全般で重要な数式の取り扱いができる能力を身に付けるため工学上重要な数学、工業数学)を学ぶ。							
授業の進め	か方・方法	微積分の とに注意	【学習上の留意点】 微積分の基礎知識が十分にあることを確認して受講することが大切である。解法の暗記ではなく、考えて答えを導くこ とに注意する。								
注意点		数学で勉まれる。 JABEE教 ・レポー	【事前に行う学習】 数学で勉強した基本的な関数の微積分ができることを確認し、問題なく解ける場合を除いて、しっかりとした復習が望まれる。 JABEE教育到達目標評価: ・レボート20%(B-1:100%) ・試験80%(B-1:100%)								
授業計画	1	1.	T		Ι.						
		週	授業内容			周ごとの到達目標	••				
前期	1stQ	1週	ガイダンス(0.5h 常微分方程式(1.	ı) 5h)	<u> </u>	授業計画および成績評価方法の説明 常微分方程式					
		2週	◇一階常微分方程 ◇変数分離形常微			授業計画および電子回路の特徴や応用範囲の説 変数分離形に帰着できる方程式を解くことがで					
		3週	◇線形微分方程式 ◇全微分方程式( ◇電気回路への応	コア)		一階の線形微分方程式の基本形を理解し、基本はを解くことができる。全微分を応用して一階の微分方程式を解くことである。 線形微分方程式の解法に基づいて電気回路の電流の時間変化を求めることができる。 一階の線形微分方程式の基本形を理解し、基本はを解くことができる。 全微分を応用して一階の微分方程式を解くことにる。 線形微分方程式の解法に基づいて電気回路の電流の時間変化を求めることができる¥					
		4週	◇線形微分方程式 ◇全微分方程式( ◇電気回路への応	コア)	1   7   <del>1</del>						
		5週	二階微分方程式 〉線形同次微分方 〉線形定数係数同 〉線形非同次微分	次微分方程式(コア	) # # # # # # #	二階の同次線形微分方程式の基本形を理解し、解決 よび基本的理を説明できる。 二階同次線形微分方程式の特性方程式、一般解、特解および基本形について理解している。また自由持 系もしくは電気回路との関連性について理解してい。 。 非同次方程式の基本形を理解し、基礎的な問題を解					
		6週	二階微分方程式 ◇線形同次微分方 ◇線形定数係数同 ◇線形非同次微分	次微分方程式(コア	- - - -	ことができる。  二階の同次線形微分方程式の基本形を理解し、よび基本的理を説明できる。 二階同次線形微分方程式の特性方程式、一般解解および基本形について理解している。また自系もしくは電気回路との関連性について理解しまる。またはでは電気回路との関連性について理解しまる。または、					

|。 | 非同次方程式の基本形を理解し、基礎的な問題を解く | ことができる。

		7週		◇線用	成ガク住式 形同次微分方程式(コア) 形定数係数同次微分方程式(コア) 形非同次微分方程式(コア)			二階の同次線形微分方程式の基本形を理解し、解法および基本的理を説明できる。 二階同次線形微分方程式の特性方程式、一般解、特殊解および基本形について理解している。また自由振動系もしくは電気回路との関連性について理解している。 非同次方程式の基本形を理解し、基礎的な問題を解くことができる。						
		8退	1	中間記	<del>术</del>									
		9週			答案返却・解答解説			・間違った問題の正答を求めることができる						
		10:	週	ラプラン ラプラン シー シー シー シー 二 ファラン シー シー シー ラブラン ラブを ラブを ラブを ラブを ラブを ラズ ラズ ラズ ラズ ラズ ラズ ラズ ラズ ラズ ラズ	ラス変換 衰 体的性質 関数や積分関数	女のラプラス変換 ラプラス変換による	解法	ラプラス変換の定義および演算の線形性を理解している。 ラプラス変換の基本的性質や変換の存在を説明できる 導関数や積分関数のラブラス変換を求めるための定理 を理解し、問題の解法に適用できる 定数を係数とする線形常微分方程式をラプラス変換することを理解し問題の解法に応用できる。 ラプラス変換を電気回路の応答解析に利用できる。						
	2ndQ	11:	□ ○定義 ○基本 ○導関 ○常微		►的性質 関数や積分関数	女のラプラス変換 ラプラス変換による 発析	ラプラス変換の定義および演算の線形性を理解している ラプラス変換の基本的性質や変換の存在を説明できる 導関数や積分関数のラプラス変換を求めるための定理 を理解し、問題の解法に適用できる 定数を係数とする線形常微分方程式をラプラス変換することを理解し問題の解法に応用できる。 ラプラス変換を電気回路の応答解析に利用できる							
		12	週	◇定算 ◇基2 ◇導門 ◇常行	k的性質 関数や積分関数	女のラプラス変換 ラプラス変換による ¥析	解法	ラプラス変換の定義および演算の線形性を理解している ラプラス変換の基本的性質や変換の存在を説明できる 導関数や積分関数のラプラス変換を求めるための定理 を理解し、問題の解法に適用できる 定数を係数とする線形常微分方程式をラプラス変換す ることを理解し問題の解法に応用できる。 ラプラス変換を電気回路の応答解析に利用できる						
		13	週 ◇特別		特殊関数のラプラス変換			ステップ関数およびデルタ関数等の特殊関数のラプラ ス変換を求められる						
		14:	週	◇逆:	ラプラス変換 試験			基本的な関数の逆ラプラス変換を求めることができる						
		15:	週	期末詞										
		16:			答案返却・解答	答解説	・間違った問題の正答を求めることができる							
モデルコ	アカリ	ノキュ	ラムの	学習	内容と到達	 :目標								
分類			分野			学習内容の到達目				到達レベル		業週		
						微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を くことができる。								
  基礎的能力	数学		数学		l t	基本的な変数分離形の微分方程式を解くことができる。					3			
-E-WCB 100/J	×^-				۱ ۸۰۰ ا	簡単な1階線形微分								
					I F	定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。 3								
評価割合	•		•								-			
試験		計験	â   12:		ポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計				
総合評価割合 80						0	0	0	0	100				
基礎的能力 0			0			0	0	0	0	-	0			
専門的能力 80			20		1	0	0	0	0	100				
分野横断的能力 0			0			0	0	0	0		0			
ノノまが供四印り	<u> </u>	lu			Ιυ  0		_U U		IU					